

ひかり

一般社団法人

光陽福祉会

発行日 平成 25年9月 第38号

おばあちゃんが教えてくれたこと～心のありがた

事務局長 浅野 尚美

私には93歳になる母方の祖母がいます。私がまだ子供だった頃の祖母は、田舎のお婆ちゃんというイメージではなく、オシャレで小粋でいつも背筋がピンとし筋が通った「カッコいいばあちゃん」でした。（昔の昔…祖母は「山田五十鈴」に似ていると言われていました）

今回は、その93歳の「カッコいいばあちゃん」が私の幼き頃に、教えてくれた事をお伝えしたいと思います。

私たちは、常に揺れ動く「心」に従って行動しています。「心」を抑制することは難しく、「心」ほど変化するものはないのです。

心に届くものすべては五感とそれを統合する意識で構成されています。綺麗なものを綺麗と感じ和みます。「心」に作用するのです。また反対に怒り等、負の感情も同じです。

幼少時に従兄と喧嘩して泣く私に祖母は、自ら「心」こそが自己の管理者であり、支配者である。「欲しい、欲しい、～やりたい、～したい」は餓鬼、「俺が、俺が」は畜生だと言っていました。また、法要の時に、数珠は丸い。これは自分の「我」を取って丸い玉のようになれということだと。そんな話をしながら、お経の最中に、数珠の中を片目をつむって覗く「おちゃめなカッコいいばあちゃん（笑）」何となく聞いていた幼き記憶の中の話がようやく身をもって理解できるようになってきたようです。祖母は、お経を唱える時に、独特のフレーズでした。それで覚えていたのでした。大人になってからあれ？と思ったことがありました。祖母には幼き頃に多くの事を、教えてもらっていたのですが、本当に意味がわかったり、感じたりはアラフォー過ぎから…。

「自分は間違っていない」「他人に何か言われたくない」等、頑なに自分の流儀を主張する人に出会います。（私もこの仲間です）我流が正しいかどうか誰が判断できるのでしょうか？

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」人は成長するほどに謙虚に。自分は正しいという思いあがりや我見を振りかざさない。謙虚さを欠く自分勝手な「我流」こそ、自己の管理者と自己支配者の「心」と向き合って自らが戒めるものなのだと思最近つくづく感じています。

「尊敬」できる人に出会えていますか？この「尊敬」とは、文字通り、相手を尊び敬う事ですが「敬」は「つつしむ」とも読み、人を敬うという事は同時に自分は謙虚になる事なのだと思います。

私は、「尊敬」出来る人に出会っています。密かに「すごいな」「生れ変ったらあんな風になりたいな」と考えたりします。その時は「自分もその人のようにになりたい」「頑張ろう」と意欲に溢れています。同時に「自分にはこんなところが足りないな」と謙虚な心が働いているのです。「心」が怒りや悲しみ、ねたみで揺らいでいるのは頑張る気持ちになれません。人を尊敬することは、自分自身を成長させる「自分磨き」なのです。どのような「心」をもつか？はあなた次第。怒りで相手を傷つけ、自分が満足したとして…その「心」は清らかでしょうか？

謙虚であればあるほどその人の魅力が増し、その人の周りには人が集まり、喜びや楽しみが生まれます。そんな事を感じながら、考えながら…年老いた「カッコいいばあちゃん」を思います。こんな大切な事を幼いころから伝えてくれていたのかと、ようやく感謝です。

数年前に、「子どもを叱るな、来た道じゃ、年寄り嫌うな、行く道じゃ」と私に言ったのが懐かしい。いつも結局のところ、「心」あり方だと教えてくれた「カッコいいばあちゃん」に感謝。そして、昔を小粋に生きてきた祖母に敬礼。

夏の思い出

魚ついで!



洗たく洗い・干し



みかんゼリーづくり♪

落とさないようにそっと...



両手でおたまを支えて



自分で作ったゼリーはうま〜い♪



プール!



今日は見学...
僕も入りたいなあ〜



良い天気!!

夏の思い出

夏祭り

毎年恒例の「つぼみ夏まつり」
今年の出店は、ヨーヨーつり・フランクフルト・かき氷
くじ引き・駄菓子屋の5店舗を出しました。
「いらっしゃいませー」と多目的に広がる声に
子ども達のハチマキ姿、スピーカーには夏祭りの音楽♪
「つぼみにも夏が来たな〜♪」と感じた1日となりました。
午前中みんなで準備、午後から開店です。

準備中!!



フランクフルト屋

カップも手作
りです!!



かき氷



駄菓子屋



ヨーヨー



あらら...



未就学さんも一緒に
参加しました♪
集合写真に試してみたものの……

